

蓮如上人五百回遠忌法要・再建十周年慶讚法要

渦巻く感動、喜びの声

満開に咲き誇る桜の中、境内一円が喜びと感動に包まれた。去る4月9、10日の2日間、本願寺鷺森別院「蓮如上人五百回遠忌法要・再建十周年慶讚法要」がご門主ご親修のもと営まれ、約2,500人が参拝、「今日の法要を待ち望んでいました。本当にありがたい勝縁にお会いすることができ感激で一杯」と参拝者らは日々に語っており、この2日間、別院界隈は喜び一色に——。



発行 和歌山教区基幹運動推進委員会
編集 教区報編集委員会
和歌山市鷺森1番地
鷺森別院内
電話 和歌山(073)422-4677
FAX 和歌山(073)428-2450
発行人 佐々木孝昭

今回の教区報は、このたび修行された二法要を中心に編集しました。今回のご勝縁を教区報を通じて、再び喜びと感激を味わつていただければと思います。

今月は二法要特集



教区内から2千500人が参拝

おかみそり749人、稚児219人



稚児219人



例年、四月十日前後にはすでに満開の桜も散り、葉桜になつていてもかかわらず、今年だけは違つていた。境内の桜がまるでこの喜びの法要を待ち受けていたように花満開に咲き誇り、まさに法要に花を添え、喜びの声が境内一円に響き渡つた。

去る四月九、十日の二日間、鷺森別院（佐々木孝昭輪番）で「蓮如上人ご遺徳を偲び、また、紀州と蓮如上人についての歴史を踏まえながら、別院再建十周年を迎えるため別院が教区の教化センターとしての機能をより一層發揮することを願つて、嘗まれたもの。

法要当日の二日間は快晴に恵まれ、境内の桜が満開に咲き誇る中、年慶讚法要」がご門主ご親修で勤められた。

今回の法要是、蓮如上人のご遺徳を偲び、また、紀州と蓮如上人についての歴史を踏まえながら、別院再建十周年を迎えるため別院が教区の教化センターとしての機能をより一層發揮することを願つて、嘗まれたもの。

法要両日の午後一時三十分から庭儀が行われた。これは別院境内を出発し、別院周囲の約一キロを参進するもの。奏楽員の奏でる雅楽に会わせ古式ゆかしい装束を身にまとつて参進。目の前で練り広げられる厳かな「絵巻」に参拝者

れ、境内の桜が満開に咲き誇る中、教区内から僧侶、門信徒約二千五百人が参拝、別院界隈は喜びと歓声に包まれた。

法要両日の午後一時三十分から庭儀が行われた。これは別院境内を出発し、別院周囲の約一キロを参進するもの。奏楽員の奏でる雅楽に会わせ古式ゆかしい装束を身にまとつて参進。目の前で練り広げられる厳かな「絵巻」に参拝者

らはもちろん、大通りを行き交う市民や車を止めて見入る人もおり、希有の勝縁にあえた喜びを味わつているようだつた。

まずは仏旗を先頭に行列の先駆けとして列係がスタート。奏楽員の後をかわいい稚児（両日二百十九人）がお父さんやお母さんに手を引かれながら進む。その後を伴（かみしも）衆・列衆・結衆が色鮮やかな衣を身にまとい参進した。

また、別院の周りを一周し、山門から本堂に上ると、ご門主を守る昵近（じっきん）が合流し、山門主が本堂内陣へと進み、行事鐘を合図に、「正信念仏偈」が勤められ、本堂いっぱいに参拝者の声が響き渡つた。

初日の法要後と二日目のお昼に帰敬式（おかみそり）が行われ、二日間で七百四十九人がご門主からおかみそりを受けた。

法要終了後、ご門主はご親教で、蓮如上人が書かれた『御文書』の「信心獲得章」を引用され「浄土真宗のかなめは信心です。今ここに阿弥陀如来様に救われる身となる、往生淨土が定まるということは、私の人生にとってまことに重要なことです」（全文は別掲）と

語られた。

このあと、随行長の速水宗譲総務(当時)があいさつ。また、佐々木輪番が今回の法要を機に抱負を述べた。

同別院では、三年前に二法要実行委員会を結成、準備が進められ、記念事業・行事を推進するために教区内の人々の懇念を結集して法要の完遂に向けてスタートを切った。

今回の法要の記念事業では、大きく二法要の修行、本堂修復・改修となっている。法要費は四千百万円、工事費は六千百万円、総額一億三千万円。

本堂の修復は、昨年六月から工事が始められ、大屋根の修理、丸瓦らくだこぶ修復、白華除去、本堂前の防水工事をはじめ、外壁亀裂の修復と本堂外装の塗り替え、山門、堀の塗り替えなどの修理が完了し、真新しい本堂がお目見えした。

別院婦人会

会長 島村 昭子

この度の法要が修行できましたことは、私たちの先賢が長い年月、いのちをかけ護持してきた輝かしい別院の歴史に新しい一頁を書き添えたことであり、これ以上の喜びはありません。この法要を機縁に皆様とともに報恩感謝のお念仏を称えさせていただき、平和で安穏な生活を送りたいと念じております。

教区仏婦人会連盟

委員長 山中 英子

昔三人の我が子も仏縁をいたしました。また幼稚園の先生からい出され、今回の稚児行列に胸が熱くなりました。子どもたちが仏法に出遇い確かな人生をと願うばかりです。

鷺森幼稚園

教諭 江崎 里恵

七ヶ月の長男と稚児行列に参加させていただきました。当日はよい天気で親子共々汗だくの行列となりましたが、良い思い出ができました。また幼稚園の先生からいろいろ親切にしていただきましたこと、この場をおかりしてお礼申しあげます。

別院責任役員・門徒総代・参与

糸川 誠一

ご門主様をお迎えしてのご縁に恵まれ、二法要の喜びと、今後の歩みを切々と述べられ、門信徒一同は宗門の繁栄を心に刻みつけられた得がたい記念の集いであります。

護持に精進させていただきたく存じます。

門徒総代会

会長 宮崎 渉

この度の二法要に参拝するご縁をいただき感謝いたしております。この法要を機縁として、お念佛とともに喜び合い僧侶・門徒が一緒になつて基幹運動を推進して参ります。

教区仏教少年会連盟

平畑 光博

この度の二法要に参拝するご縁をいただき感謝いたしております。この法要を機縁として、お念佛を一緒に深く感謝いたしたいと思います。

喜びの声

ご門主ご親教

このたびは、本願寺鷺森別院蓮如上人五百回遠忌法要、並びに本願寺鷺森別院再建十周年慶讚法要

を有縁の皆様とご一緒にお勤めできましたこと、まことにありがとうございました。

このたびは、本願寺鷺森別院蓮如上人五百回遠忌法要、並びに本願寺鷺森別院再建十周年慶讚法要

として、アメリカにおけるテロ事件に続く戦争が今日も続いているといえましょう。皆様お一人お一人の身の上にもさまざまなものになりましたことを思っています。

さて、蓮如上人のご生涯とこの別院の歴史につきましては、皆様ご承知のことと思いますが、先ほどの表白文、また法要のしおり等などをご覧いただきたいと思います。蓮如上人とご縁の深い当地で五百回遠忌法要をお勤めできることは、一層味わいの深いことでございます。

蓮如上人は当地ともご縁の深い御文章に「信心獲得すといふは第十八の願をこころうるなり。この願をこころうるといふは、南無阿弥陀仏のすがたをこころうるなり。」とお述べになつていらっしゃいます。

淨土真宗のかなめは信心です。それは、訳も分からず信じるというようなことではなくて、南無阿弥陀仏のいわれ、つまり大事な内容がわが心に届くということあります。

浄土真宗のかなめは「ご信心」

今ここに阿弥陀さまに救われる身となる

このたびのご法要、そしてご本堂、その他諸設備の充実のためにひとかたならぬご尽力、ご協賛くださった方々に心より感謝申しあげます。

ちょうど十年前、一九九五年四月八日・九日と、このご本堂の落慶法要を皆様とご一緒にお勤めいたしましたことを思い出します。それは、阪神淡路大震災の三ヶ月後、地下鉄サリン事件の三週間後のことでした。それから一〇年もたたないうちに、新潟・福岡と大きな地震がありました。

海外では台湾・イランの地震。そしてスマトラ沖地震・津波があ



南無阿弥陀仏の言葉の上では、私が阿弥陀如来さまを信じますという意味になりますが、中身は阿弥陀如来さまが私を救つてくださいますという意味です。

お念仏だけで救われるというのは、どうもの足りないという現代人の批判を耳にいたしますが、その方にはおそらく南無阿弥陀仏の中身が届いていないから、あるいは南無阿弥陀仏を私のものにしてしまって、自分の言葉のようにして救われるかどうかを考えているということではないでしょうか。

たとえ話を用いますと、自分にとつてよいなつかしい思い出を残

した人の名前は、心に思い浮かべ、声に出すだけで心がやすらぐことであり、励まされることでもあります。心が届いているからであります。

今ここに阿弥陀如来さまに救われる身になる、往生成仏が定まるということは私の人生にとつてまことに重要なことです。人生という重い荷物を持っていても、目的地を見失い右往左往するのと、目的地が分かつていて、一步一步進むのとでは全く内容が違います。

人類ははるか昔から、いのちの根本問題である老・病・死に悩んできました。それは仏法が正面から取り組んできた課題でもあります。

す。それとともにその時代、その場所で、人びとに共通の悩みごとや、各自一人だけの悩みごともかかえています。

今日では、時代特有の悩みが深刻に感じられる場合が多いように思われます。ちょっとと思いつくだけでも、高齢者の問題、青少年の問題行動や生きがい、年間数千人の交通事故死、三万人を越える自殺者、そして自然災害、さまざまな課題があります。その中でわが身に身近なことがらを取り組んでいきますと、一方には社会のあり方、仕組みに関わることがが思われ、他方には私自身の生き

題が現れます。

今日の社会では、人間を商品や機械のように扱う経済活動、学校の成績や見かけだけで子どもを評価する風潮があります。

ひるがえって私自身が何によつて生きるのか、それが分かりにくくなつて不安になることなど、大事なことがらに気づかされます。

そこから時代を越えた人間の根本問題を解決する教え、仏法を聞き、仏法に問う道が開かれてきます。

親鸞聖人はご和讃に、

「糸迦の教法おほけれど

天親菩薩はねんごろに

煩惱成就のわれらには
煩惱の弘誓をすすめしむ

とうたわれました。

煩惱がつくることのない私であります。が、阿弥陀さまにしつかりと受け止められ、人生にとつて一番大切なことがらを教えられ、持つている力を十分に發揮して、この人生を生きぬきたいものでござい

ます。

このたびのご法要を機縁に、お念仏申しつつ、お互いに支え合つていく世の中、心豊かに生きることのできる世の中を築いてまいりたいと思います。

二法要記念行事

二法要に先がけて、記念行事として三月二十六日に、「鷺森御坊と孫市の街へ花まつり」が開催された。鷺森別院と地元商店街が初めて共同で行つたもの。

和歌山市駅周辺の商店街は、戦国時代に本山護持のために活躍した鈴木孫市にちなみ、「孫市の会」

を組織し、町おこしをしている。花まつりでは、「孫市の会」会員や全国から駆けつけた「十九人が、手作りの甲冑をまとい雑賀衆に扮して、ほら貝、太鼓を鳴らしながら市駅から別院までを行列したあと、別院境内で火縄銃の演武を行つた。鷺森別院と地元商店街が初めて

本堂では、音楽礼拝が行われ、向陽高校教諭で、門徒の弓倉弘年さんが「雑賀衆と鷺森別院」と題して記念講演を行つた。また、「かり



ようびんが鷺森」「エコー鷺森」によるコーラス、さらには、桂米八さんの落語が行われた。

境内では、せんざい、たこやき、孫市鍋、コーヒーなどの出店、またお茶会も開かれ、子供たちのために幼稚園園庭が開放され、映画会などが催された。

当日は、天候にも恵まれ、ご門徒、近隣の住民など約千五百人が集い、境内がにぎわつた。

二法要

フォト特集



今般、ご門主様ご親修のもと修行いたしました二法要に際し、教区内ご住職をはじめ、多くの有縁の方々のご尽力・ご協力を賜りました。お陰をもちまして、法要の円成をみることが出来ましたこと心より深謝申しあげます。

別院の歴史は、僧侶・門信徒を越えたお念仏を喜ぶ多くの方々のご懇念により支えられてきましたが、このたびの法要を機縁にますます教区における教化センターとしてその役割を担つていきたく存じます。

また、各ご寺院に依頼いたしておりますご懇志も約八十%の進納をいただいておりますが、今後とも引き続き皆様のご支援ご協力を賜りたくよろしくお願ひ申しあげ、お礼のご挨拶とい

ありがとうございました。

今般、ご門主様ご親修のもと修行いたしました二法要に際し、教区内ご住職をはじめ、多くの有縁の方々のご尽力・ご協力を賜りました。お陰をもちまして、法要の円成をみることが出来ましたこと心より深謝申しあげます。

別院の歴史は、僧侶・門信徒を越えたお念仏を喜ぶ多くの方々のご懇念により支えられてきましたが、このたびの法要を機縁にますます教区における教化センターとしてその役割を担つていきたく存じます。

また、各ご寺院に依頼いたしておりますご懇志も約八十%の進納をいただいておりますが、今後とも引き続き皆様のご支援ご協力を賜りたくよろしくお願ひ申しあげ、お礼のご挨拶とい

ありがとうございました。

お礼の言葉

鷺森別院輪番

佐々木孝昭

わたくしの心はザルに水を
いれるようなものでございま
す。仏法の話を聞かせていた
だく時は、實にありがたく喜
び、尊いことだと感激するの
でございますが、ひとたび、
その場を離れますと、またも
との心に戻りまして、ありが
たくも何ともない生活にかえ
ってしまいます。いつもあり
がたい喜びの中に生きたいも
の、あこがれも、欲望のすき間
からザザもれになるばかりです。

本願寺の第八代蓮如上人は中
興の祖とあおがれる方で、和歌
山に大変ご縁の深い方であります。
まことにありがとうございます。お
同行の一人が、上人に向かつて
お尋ねをいたしました。

は、人間の貪り、怒り、嫉みの
醜い心にたとえられます。人間
の心は、ザルのようにすき間だ
らけのものであると申されるの
であります。眞なるもの、美し
いもの、尊いものに対する尊敬
も、あこがれも、欲望のすき間
ところが、蓮如上人のみ教えは、

鷺森テレホン

紙上法話

下間 信男

(和歌山教区 本願寺派布教使)

のだと願っているのでござい
ますが、どうしたらよいもの
でございましょうか。
蓮如上人はすぐさま、
ザルを水につけなさい。
わが心をそっくり、そのまま
法水の中につけておかれが
よろしい。

とお答えになりました。

「法水の中」と申しますのは、
「み教えの中に」ということで
あります。すきまだらけのザル

すき間だらけの欲望のザルを、
そのまま法水の中に投げ入れて
しまえということであります。
すると、すき間からザルの中にいっ
ぱいたえられることになります。
同時に、法水はザルの中にいっ
ぱいたえられることになります。

陀さまのお慈悲の中に、まかせ
きつた人生を歩ませていただき
ます時、悲しみや、苦しみを乗
り越え、強く明るく生きぬく喜
びが恵まれるでしょう。

お慈悲の中にまかせきつた人生



鷺森テレホン 法 話

24時間いつでもどこからでも3分
間法話が聞けます。

(法話は毎月一日・十五日に変わります)

073-422-0243

おにしさん

宗会議員決定

**僧侶議員
門徒議員
内芝さん**

任期満了に伴う宗会議員選挙が実施され、僧侶議員が四月二十日、門徒議員が同二十二日に投票が行われた。結果、僧侶議員は藤下恒庸さん（和歌山組西法寺住職）、門徒議員は内芝善明さん（日高組円明寺門徒）に決まった。



内芝 善明さん



藤下 恒庸さん

三月三十一日に僧侶議員選挙の宗告が発布され、同日午前九時から立候補者の受付が開始された。立候補届出期限の四月三日午後四時をもって、荻野昭裕さん（海南組淨国寺住職）と藤下恒庸さんの二人の届出があり、教区では二年ぶりの僧侶議員選挙となつた。

四月二十日に各投票所において投票が行われ、翌二十一日午後二時半より鷺森別院会議室で、選挙会が開催された。

去る四月一日付で森田順照和歌山教区賛事・鷺森別院参勤が同別院副輪番に就任した。



森田順照副輪番

森田さん副輪番に就任

就任に当たり「まだまだ若輩ものではございますが、別院・教区のために、微力ながら誠心誠意、責務を果たしたく、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう切にお願い申しあげます。」と述べている。

開票の結果、藤下さんが三三九票、荻野さんが二九一票で、新宗

会議員に藤下恒庸さんが当選した。今回の投票率は約九四%で有権者の宗政への関心の高さをものがたつているものといえる。

また、翌二十二日開催の教区会において門徒宗会議員選挙が実施され、日高組選出の楠原晃紹議員の推薦により内芝善明さんが推挙され、投票が行われた。

結果、有効票二十票、白票一票で内芝さんの当選が決定した。

当選決定後、谷河光哉第十七選管委員長から両議員に当選状が手渡され、教区並びに宗門護持発展のため、ご尽力いただきよう大きな期待が寄せられた。

教区勤式講習会

今年度前期の勤式講習会が鷺森別院と日高別院で開催される。

月	講習内容
5月	正信偈（草譜・行譜・第二種）
6月	正信偈（草譜・行譜・第二種）
7月	無量寿經作法
9月	往生礼讃

※8月は休会となります。

鷺森別院

【常例法座】毎月十五・十六日

午後一時半より

六月 高嶋正鶴師（兵庫教区）
七月 門中淨光師（兵庫教区）

【永代経法要】

六月二十六日 午後一時半より

日高別院
六月二十日 午後一時半より
門中淨光師（兵庫教区）

得度

根来 真明 和歌山組
鷺山 杏美 和歌山組
北畠 崇夫 和歌山組
北條 明 紀南組
藤岡 裕子 和歌山組
和田 慶仁 和歌山組
岩橋 勝 紀南組
宇多 真海 紀南組
伊那組
有賀組
眞光寺
覺照寺
光明寺
専念寺

教師

藤岡大祐教区
勤式指導員を講師に下記講習内容により指導が行われる。参加費は無料。詳細は教務所までお問い合わせください。
鷺森別院（毎月第1土曜日 午後7時より）
5/7 6/4 7/2 9/3
日高別院（毎月第3土曜日 午後7時より）
5/21 6/18 7/16 9/17

月	講習内容
5月	正信偈（草譜・行譜・第二種）
6月	正信偈（草譜・行譜・第二種）
7月	無量寿經作法
9月	往生礼讃

※8月は休会となります。

別院だより

逝去
藤岡知恵代 伊那組
衆徒・前坊守 平成十七年一月三日
照光寺